

文京区観光ビジョン

〔概要版〕



平成21年
文京区

観光ビジョン策定の背景

地域活性化の重要な手段としての『観光』への期待

●生活者の視点から

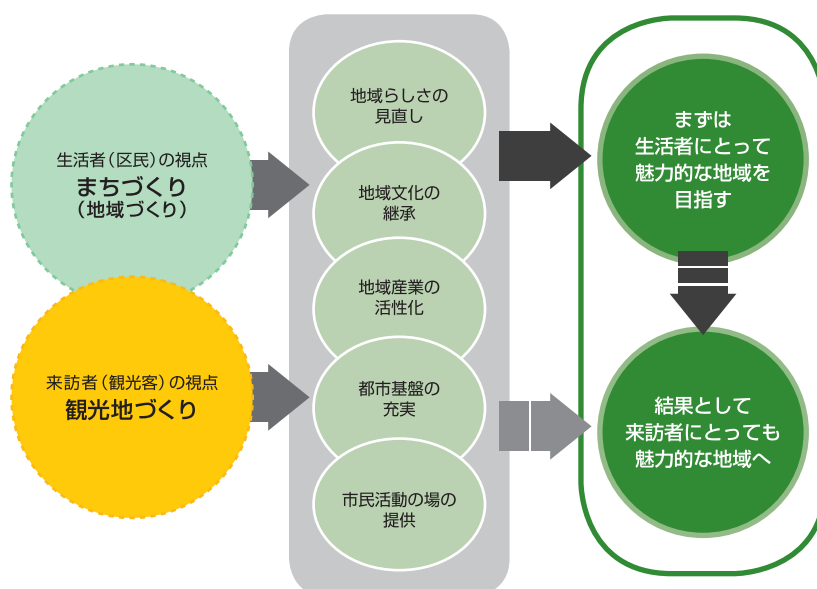
来訪者との交流を通じて自分の地域を見つめなおすことができ、地域に対する愛着と誇りが高まる。

《まちづくり（地域づくり）》

●来訪者の視点から

日常とは異なる生活文化に接することで、刺激や満足感を得ることができ、明日への活力を生み出す。

《観光地づくり》



資料：財団法人日本交通公社

その結果として

生活者・来訪者双方の視点に立った「観光まちづくり」

区民にとっても来訪者にとっても魅力的な地域を実現

文京区が観光振興に取り組む意義

社会的効果、経済的効果の2つの効果

- 社会的効果：歴史的・文化的な資源の継承、生涯学習の充実等の効果
- 経済的効果：宿泊施設等の観光関連産業、飲食店等の地域経済の活性化の効果

観光ビジョンの位置づけ

文京区は、地域の発展・活性化を推進するため、基本構想、同実施計画に基づき、文京花の五大まつりなど、さまざまな観光施策に取り組んできました。

一方、国と東京都も「観光の発展を通じ、地域住民が誇りと愛着をもつことができる活力に満ちた地域社会を実現していく」ため、様々な施策に取り組んでいます。

こうした流れの中で、本区においても、活力ある文京区を目指して、更なる観光振興に取り組むこととしました。

今回策定する「文京区観光ビジョン」では、長期的な視点に基づき本区の観光をより魅力的なものとしていくため、今後10年間の観光振興の取り組みを示します。

文京区の観光を取り巻く現状と課題

文京区の観光資源に関する現状

本区は、弥生土器発掘の地である弥生町、小石川後楽園や六義園などの庭園、夏目漱石や樋口一葉などの文人に関する史跡など、歴史の重層性を感じる人文資源を中心とした観光資源が多く点在しています。さらに、大学をはじめとして多くの教育機関・研究機関があり、先端的な文化を発信するなど多様な文化を創造し続けています。このような本区の観光資源の持つ魅力を来訪者にわかりやすく、正しく伝える必要があります。

文京区の観光の実態

来訪者、区民(居住者)、事業所に対して意識調査を行いました。

■来訪者の来訪実態

質問	最も多かった回答	
●来訪形態	日帰り	81.9%
●訪問の主な目的	まちあるき	56.0%
●まちあるきの行き先	庭園	24.3%
●同行者	1人で	35.5%



文京区の観光の振興にむけた可能性と課題

●本区は、豊富な歴史・文化資源をもち、区民、来訪者ともに根強い人気があります。

「歴史と文化の香り高いまち」としてのイメージが定着しており、これらを活かした取り組みを推進する必要があります。

●地域資源が生活空間にとけ込むように点在しています。

本区の地域資源は、じっくり歩いてこそ見つかる資源、解説により価値が高まる資源です。歩きながらまちの魅力を発見する「まちあるき」の施策を推進する必要があります。

●商店街や区民が主体となって、まつりなど様々な来訪者を迎える取り組みを行っています。

様々な担い手が連携し、観光振興に取り組んでいるという本区の特性を活かす必要があります。また、取り組みに応じて、近接区との連携を視野に入れる必要があります。

文京区の目指す観光と基本方針

文京区の観光ビジョンの理念と目標

理念

「行ってみたい、来てほしい、文の京」

- 来訪者にとって「来訪者が魅力的に感じ、何度も行ってみたいと思うまち」
本区を訪れ、区民と交流することを通して、来訪者自身の変化につながります。
- 区民にとって「区民が誇りに思い、いつでも来てほしいといえるまち」
来訪者の視点を通じて、地域の質を高め、その良さを再認識します。

生活の場、交流の場として、高い可能性を持つ本区は、観光振興を通じて区民と来訪者が共に満足できる観光まちづくりに取り組み、「区民にとっても来訪者にとっても安全・安心なまち」「いつかは住んでみたいまち・ずっと住み続けたいまち」と思われるまちを目指します。

目標

理念を踏まえた観光ビジョン実現のための3つの目標

① 四季折々の魅力をもった文の京

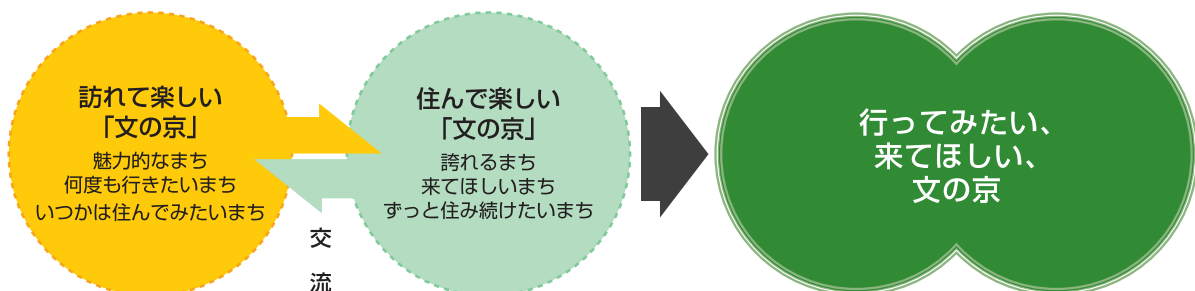
地域が有する四季それぞれの魅力を高め、来訪者や区民に楽しさを伝えることにより「四季折々の魅力をもった文の京」の実現を目指します。

② おもてなしの心溢れる文の京

来訪者と区民が交流を深め、理解と信頼関係を築き「おもてなしの心溢れる文の京」の実現を目指します。

③ 歴史と文化を大切にする文の京

これまでに創造された歴史・文化を次の世代へ伝えるとともに、新たな文化を生み出し「歴史と文化を大切にする文の京」の実現を目指します。



文京区観光ビジョンの基本方針

基本
方針

3つの目標を実現させるための3つの基本方針

(1) まちあるきを促進することにより文化・産業を活性化させる

自分なりの視点でまちの魅力を発見する「まちあるき」を楽しむ来訪者を念頭に、区民と来訪者の交流により、文化・産業の活性化を図ります。

(2) 住んでみたい、住み続けたいまちを実現する

来訪者にとって「住んでみたい」、区民にとって「住み続けたい」と感じさせるような地域の魅力を創出し、来訪者・生活者双方の視点にたった地域づくりに取り組みます。

(3) 多様な主体がそれぞれ担い手となる

観光関連の事業者だけでなく、地域の多様な担い手が観光振興の意義と役割を理解し、自立した担い手として積極的に取り組みます。



取り組みの柱と基本施策

取り組みの柱 1

まちあるきを中心とした資源の発掘・活用・創出

- 文の京の誇りとなるまちなかの魅力発掘と磨き上げ
- 文の京を分かりやすく伝えるストーリー性ある観光コースづくり
- 「学び」の要素と連携した文の京ならではの新しい魅力づくり
- まちあるきを誘発する「文京ブランド」の構築



取り組みの柱 2

まちあるきのための環境整備

- 文の京らしい景観づくりの推進
- 区内の回遊性を向上させる誘導システムの整備
- 安全・安心でやさしいまちを実現する環境整備の推進
- 区民の生活に配慮したまちあるきの仕組みづくり



取り組みの柱 3

まちあるきを通じた交流の場・機会の創出

- 区民や来訪者の交流充実にに向けた環境づくり
- まちあるきイベントの推進
- MICE ※1の誘致（アフターコンベンション※2の充実と誘致）



※1 会議（Meeting）、報奨・研修旅行（Incentive（Travel））、国際会議（Convention）、イベント、展示会・見本市（Event/Exhibition）のこと。会議等の開催により、来訪者の増大や各種分野への経済効果などが期待されます。

※2 会議終了後に、参加者や主催者、同伴者が開催地周辺で視察や観光、飲食等を行うこと。

取り組みの柱 4

観光まちづくりのための情報発信

- 文の京に関する情報収集・発信機能の強化
- ターゲットを明確にした効果的な情報発信の推進
- メディアの有効活用による「文京区」の積極的なPR
- 情報通信技術を活用した情報発信の推進



取り組みの柱 5

観光まちづくりのための人材育成

- 文の京の魅力を伝える人材等の育成
- 観光まちづくりに携わる団体・人材の発掘と活用
- 文の京全体としてのホスピタリティの醸成



取り組みの柱 6

観光推進体制の構築

- 各主体の役割の明確化と連携による観光振興の実現
- 観光協会の体制強化
- 行政内の観光推進体制の強化
- 広域連携体制の確立



観光ビジョンの推進に向けて

観光ビジョンの施策を進めるための原動力は、文京区を舞台として活躍する一人ひとりの力の集積といっても過言ではありません。区民など地域の全ての人々が観光の担い手であるという意識をもち、自ら取り組んでいくことが重要です。

施策を推進する様々な主体が役割を認識し、文京区全体として取り組むことで「行ってみたい、来てほしい、文の京」の実現を目指します。



文京区観光ビジョン [概要版] 平成21年8月

発行／文京区 編集／アカデミー推進部アカデミー推進課 編集協力／財団法人日本交通公社
〒112-8555 文京区春日1-16-21 電話：03(5803)1174 印刷物番号 E0209004
